

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500016		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム 優海		
所在地	熊本県天草市御所浦町御所浦3916-6		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年2月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

県内唯一の離島の町であることをハンディととらず、利用者様が生まれ育ち、住み慣れたこの島で顔見知りの職員がケアを行う、地域密着型サービス本来の姿が優海にあると自負している。地域の行事に参加する時も、まるで近所の自宅から来たお年寄りと同じように笑顔で話し掛けてくれる島民の温かさ事業所の強みと考える。認知症になっても、優海の職員の手助けがあれば安心して暮らしていけるといった、地域のセーフティネットの役割を果たしたい。管理者の人間性が厚く、職員が明るく元気に勤務する姿は、他のどのホームにも負けない光景である。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年に開設したホームでは管理者の変更という過度期にあるが、職員としての長年の経験からの抜擢であり、新体制のもと全職員が管理者を盛り立て、“いつも穏やかに こにやかに”を目標に一人ひとりの思いに密着した和やかな日常が支援されている。離島という住み慣れた環境の中でホームを“我が家”として住み続ける環境はグループホームの神髄であり、ホームの運動会に老人会も参加されたり、ボランティアの訪問等老人会の活性化としても生かされており、地域を支え・地域に支えられる関係性が更に密接な関係となる等地域の一員として確固たる基盤が築かれている。一人暮らしや老々夫婦という中に、ご家族は遠方であってもこのホームで最期まで支援する体制であることや入居者の生き生きとした表情に家族からの絶大な信頼が得られたホームであり、家庭的な温かいホームが形成されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誇れるホームにしよう～地域、家族そして利用者に」を基本理念に掲げ、毎朝の朝礼で唱和することで、職員全員が再確認し、職員で決定した今年度目標「いつも穏やかに、にこやかに」の実践に繋げている。	地域や家族・利用者を視点に誇れるホームを目指し、全職員で目標を掲げ、利用者と一緒に唱和しながら、意識向上を図っている。“いつも穏やかに にこやかに”の実践に地域の散策やドライブ等で笑顔を引き出し、得意分野を発揮した生活等職員が寄り添いのケアの徹する姿勢に目標達成に向けた取り組みが表れ、一人暮らしや老々夫婦の多い環境の中、第二の我が家としてアットホームな環境が形成されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の地区祭りや、敬老会には出来る限り参加いただいている。 小中学校の運動会にも出かけ、馴染みの方々と交流する時間を提供している。	離島と言う環境にあるホームは、昔ながらのご近所付き合いが色濃く残り、散歩する利用者の姿に「ほっとする」との声かけもある等地域の中に溶け込んでいる。ホームの運動会への老人会の参加や、近隣住民・老人会によるホームの草取り・掃除やレク等の毎月ボランティアとしての訪問等老人会の活性化にもつなげている。小・中学校の運動会では利用者の活躍の場も作られ、ホームも地区の掃除参加や、夏祭りには寄付をし職員も神輿を担ぐ等地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会や中学生のボランティアの受け入れも定着しており、実際に触れ合う時間を共有することで「認知症」への理解を求めている。 中学生の来訪時にはご利用者様自らがお礼を述べられる姿も見られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区区長、包括支援センター、老人会から参加を頂き、日頃職員では気づき得ない貴重なご意見や情報を頂くことも多く、それらを職員間で共有、反映させることでサービスの向上に活かしている。	二カ月毎に開催している運営推進会議は参加人数は多くはないが、議題の提示と利用者の様子を見てもらいながら意見交換を行っている。また、参加委員の要望により夕方からの開催に変更し、出された意見は全員で精査しケアサービスに反映させていることは避難経路の確保という課題にウッドデッキの設置等具体的な改善が行われていることに表出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の集団指導を始め、困難事例や制度上の不明点等は連絡・相談をし、適切な指示やアドバイスを受け連携を図っている。	代表は運営推進会議の議事録提出に向く等行政との情報交換に努め、集団指導への参加や地域包括との関係も構築し運営推進会議へ毎回の参加を得ている。また、社協からの待機者相談や在宅生活困難者の情報交換を行い、利用者の状況やホームの現状確認に頻繁にホームに訪問されており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が、拘束の種類を理解し、決して拘束はしない、という共通認識を持っている。ご利用者様の安全と、防犯の観点から玄関の鍵は夜間のみ施錠しているが、日中は常にオープンにし、ご利用者様の自由の妨げにならないようにしている。	身体拘束廃止宣言をしたホームであるが、新人職員の採用もあり勉強会の開催により、ここまでは大丈夫と思っていたケアに改めて気づく機会となる等職員間の意識付けに繋がっている。また、利用者個々の帰宅願望を把握し、外出したい様子に散歩等外に出る事で気分転換を図っている。皆さんが落ち着いた生活であり、玄関は開錠し自由な生活が支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が、虐待はあってはならないという認識を持ち支援している。又、研修会に参加した職員を中心に勉強会を行い、再認識する機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	天草市社会福祉協議会内の「あまくさ成年後見センター」からの説明を受け、対象となりうる利用者様がおられる際は、相談できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文書により十分な説明を行っている。又、利用者様やご家族の不安や疑問にも耳を傾け、理解納得が得られるまで、時間をかけて説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの電話や、面会時の会話から意見や要望を頂くことも多々あり、その都度個人経過記録や業務日誌に記入し、全職員が情報を共有できるようにしている。	入居者と職員との馴染みの関係が構築し、日々のかかわりの中で思い等を聞き取りしている。遠方の家族も多く、管理者及び担当スタッフに毎月近況報告を行い、電話連絡により意見や要望を収集したり、帰省時に聞き取りしている。家族からの「○○をして欲しい」等要望に、業務日誌や個人経過記録により共有化を図っている。	ホームページの立ち上げにより、ホームの日常開示が進行しているが、遠方の家族向けにホーム便りでの現状発信を検討いただきたい。広報係による手作り感あふれる壁新聞は目を引くものであり、ぜひご家族への発信源として生かされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングでは、職員からの提案や意見を聞く機会を設けている。必要に応じて、個別での面談を行っている。	新たな管理者は日々ケアに入り、代表や職員と何事も相談しながらホームを運営している。各委員会(設備・美化・広報や健康管理等)の下、毎月担当者の意見を基に話し合い、職員の提案による勤務時間体制の変更や今年度はBS法による目標を設定する等チームとして取り組んでいる。また、代表及び管理者は個別面談を行い、職員の悩みや意見を聞き取りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の生活環境や、家族構成に留意し、勤務シフトを作成している。4月には給与体系の見直しを予定し、管理者と協働でその査定評価を反映させたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の有する資格や、キャリアを把握しながら、研修の機会を設けているが、離島というハンディもあり外部研修の回数は多くはない。イベントの企画や、行事の実施については責任と権限を持たせることで、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のGH連絡会に積極的に参加し、ネットワークを築いている。来年度は天草地区の世話役が予定されており、さらなる関係性の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や相談者の来訪の際、ご本人やご家族の不安や要望をお聞きする機会を作り、出来る限り不安が軽減した状況で入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご意見や要望に耳を傾け、グループホームで出来る支援の説明をしている。ご本人が自分らしく生活できる為の最善策を、職員と一緒に模索する事で、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のご意見や要望を踏まえつつ、現在抱える問題点等を検討し、他事業所の利用を含めた最善策を講じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩である」という尊敬の念を持って接している。 調理や掃除、食事も職員とご利用者様が協働で行う環境作りが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や、個々の誕生日会には出来る限り参加していただき、時間を共有していただくことでご家族との関係が保たれるよう支援している。 遠方にお住まいのご家族にも、電話や手紙で近況報告をし、又帰省の際は可能な限り外泊していただきご家族との時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敬老会や祭りといった地域の行事には、出来る限り参加していただき、馴染みの方と会える機会を提供している。 知人の方にご利用様の近況を聞かれた際は、状況を伝え、可能であれば面会に来ていただくよう申し添えている。	散歩や地域行事参加時知人等会う方々に声掛けすることで訪問に繋げ、家族や親類・知人等の訪問や在宅時の生活圏での散歩は多くの人々との交流の機会としても生かされている。また各利用者の地元の敬老会参加や地域で継承されている祭り等に出かけ、初詣やお月見団子等慣習等も継続して支援している。また、家族との関係性も注視し誕生会に参加を依頼したり、「お墓参りに行きたい」との希望に、家族に相談し遺影と仏像を居室に持ち込んでいただく等これまでの関わりが途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	残された能力、趣味趣向に応じて利用者間の役割が出来、お互い助け合い、支え合いながら生活できている。 意思の疎通が困難なご利用者様に対しては、職員が間にはいることでコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	離島故、退居なされた方のご家族様とお会いする機会も多く、ホームの近況報告も含め、交流を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を傾聴することで、ご本人様の希望や意向の把握が出来るよう努めている。 困難な場合は表情や、行動を観察しながら職員間で検討して、ご本人の立場に立った支援している。	職員は日々深く関わり、良く会話を交わし希望や要望を引き出している。意思疎通・発語困難な方にも一度トライし表情等推察しながら本人の思いに応え、“笑顔”をバロメーターとしたり、会話の中に選択肢を投げかけながら本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や、馴染みの暮らし方についてご本人様との会話の中から把握すると共に、ご家族や知人の面会時にもより多くの情報が「収集できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に沿った内容で、ご本人様の「出来る事」が継続できるよう支援している。心身や精神の状態変化も経過記録や健康チェック表に記載し、検討すべき点については早急に対応するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状態の変化により、検討が必要な場合は担当職員が中心になり、ご本人様、ご家族、計画作成担当者を含めた話し合いの場を設け、「その人らしい生活」が継続して送れるよう作成している。	利用者のできることを視点として実現可能なプランを作成している。毎月のケアカンファレンスの中で、担当職員の意見を基に話し合い、半年毎のアセスメント・モニタリング等現状に即したプランを作成している。高齢化・認知症があっても「らしい」生活の継続や“まだ若いもんにはまけんぞ！”と東京オリンピックを見に行くことを目標に掲げ、その達成に向けプランに生活リハ等も取り入れる等本人の思い等も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画に基づいて経過を記録すると共に、気づきについては特記事項にその都度記入し、出来る事と出来にくくなってきた事の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体の事業所が、福祉用具を取り扱っている為、ご利用者様の要望や身体機能の低下に応じた対応が出来ている。また、同系列の事業所とも連携を密にし、緊急時には応援を要請している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの理解や、支援を得る事が出来ている。グループホームで生活しながらも「一人の住民である」という思いを継続していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月の往診でご利用者様の健康管理を行っている。その他、島外の専門医療機関受診については、看護師または職員が付き添う支援を行い、家族に結果報告を行っている。	島内の診療所は入居者の元々のかかりつけ医であり、ホームでも二週間毎の定期往診を受けたり、体調変化時は相談や指示をもらう等の関係を築いている。又、診療所や島外の専門医を受診される方もおられ、職員が同行し情報を家族と共有し、緊急時の搬送先の希望を確認し、日頃の健康観察や看護職との協働で異常の早期発見や早めの対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様の健康状態の変化や気づきに於いては、職場内の看護師に逐一報告し、指示を仰いでいる。 受診が必要な際は、主治医に相談し対応する等の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院の際は、必ず定期的に面会に伺い、「病状が安定すればいつでも待っています。」との旨をお伝えし、安心感を持っていただいている。 主治医や、看護師と情報交換を行い、早期退院に向けた体制作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様が余命宣告を受けられた段階で、ご家族やご本人の意思を確認し、それを踏まえた支援が出来るよう、医療との連携を図っている。	重度化時の対応指針を作成し、状態変化で重度化が見込まれる場合は本人・家族の意向を確認しホームでできる事を説明している。生まれ育ったこの地で最期の時をとの希望に医療や看護職との連携を図り終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	天草広域連合御所浦分署の指導の下、AED講習を含めた、救急蘇生法の講習を実施している。 急変時の対応マニュアル、連絡網の整備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	福祉避難所の指定を受けることで、救援物資の補給や、ライフラインの早期復旧が可能に。 2回/年の消防・避難訓練には近隣住民にも参加いただいている。	消防署立会いの火災避難訓練を年2回実施し、運営推進会議と合同で実施し、消火器の使用方法や避難経路を確認している。夜勤者による火元チェックや、防災マニュアルを新たに作成する等防災意識を高め、福祉避難場所としての指定や近隣からも有事の際は「来ていいですか」との声も上がる等ホームの存在が確立されており、備蓄に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に入室する場合はノック、またはご本人の許可を得ることを基本としている。 日々の会話に於いても、方言を用いながらも人格を損ねないよう留意している。	職員は親しみを込め方言を交えた自然体での会話で入居者との関係を築きながらも、人生の先輩として人格を損ねない対応に努めている。許可を得た入室や、トイレのノックは入居者同士でもされており、プライバシーの確保に取り組んでいる。又、職員も島民という事もあり、守秘義務を徹底し情報の取り扱いを遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「今からする事」、「お手伝いいただく事」を分かりやすくお伝えし、ご利用者様の同意、あるいは表情から判断することで自己決定が出来るよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課表は作成しているが、ご利用者様の体調や意向を見極め、個々の思いやペースに沿った支援が出来るよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は利用者様にお任せしているが、必要時に応じて職員が助言・援助している。 男性利用者の散髪については地元の理容店に来て頂き、女性利用者については理美容有資格者の職員により定期的、又は希望時に整髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理具の使用が可能な利用者様には台所に入って頂き、下ごしらえや味付けを職員と一緒にやっている。 また、食卓でも個々の力量に合わせてテーブル拭き、配膳・下膳が出来るよう支援している。	入居者も野菜の下ごしらえや巻きずし作り・下膳等出来る事に携わり、新鮮な魚が入った日等は一緒に港まで買い物に行き調理方法を職員に教える等共に取り組んでいる。相性や介助を考慮したテーブル配置や個々に応じた形態で提供し、畑作りは育て収穫し食するという一連の喜びとなり、誕生日は職員手作りのケーキでのお祝いやお弁当の日として戸外での食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事や水分の摂取量を記入し、全職員が把握している。 また、水分摂取量が少ないご利用者様には好みの飲料を提供したり、義歯の有無・好みに合わせて食事の形状や量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを施行している。 ご自分で出来ない利用者様については、職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様一人ひとりの排泄パターンを全職員が把握しており、日中はトイレにおいて排泄できるよう支援している。 失敗があっても他者に気づかれないよう注意を払い、自尊心が傷つく事の無いよう支援している。	排泄パターンを把握し、声かけ・誘導によりトイレでの排泄を支援する事で下着の改善に繋がったり、自立された方へのさり気ない見守りは本人の自信となる等自立に向け支援している。職員は手引き歩行での誘導や、汚染時の気遣い、夜間時は本人の納得の下ポータブルを使用する等常に尊厳に配慮しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時間に牛乳等の乳製品を取り入れたり、食物繊維を多く含んだ食事を提供している。 ラジオ体操、掃除、散歩等なるべく身体を動かして頂き、自然排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制を整えており、お一人おひとりがその日の気分に合わせて入浴できるようにしている。 入浴を好まれない方については、入り易い雰囲気を作るための言葉がけを行っている。	毎日入浴できる体制を取り入居者の希望に合わせて支援している。拒否に対しては無理強いをせず誘い方を工夫しており、暖簾による温泉気分の演出や、「気持ちよかったけん、あんたも入ってきなっせ」と入居者の声かけでスムーズに入られることもある。清拭・足浴等での対応や楽しみの支援として入浴剤やゆず・しょうぶ湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中殆どのご利用者様がホールで過ごされるが、午睡等の習慣があるご利用者様については、和室や自室で休息頂いている。夜間の睡眠についても、お一人おひとりのタイミングに合わせて就床して頂き安心して眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様毎の薬ケースを設け、服薬中の薬の明細を貼付け全職員が確認出来るようにしている。薬の変更時には経過記録に記載し、申し送りに於いて誤薬等が無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・掃除等、家事の役割を持つことで、張り合いや存在意義を感じて頂いている。  ご家族や、主治医からの指示がない限り、飲酒や喫煙を禁じる事はない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、ドライブ・散歩等、その日の希望に沿って出掛けている。近所のお地藏様までお参りに行く事を楽しみに日課にされている。又、1回/年の島外への日帰り行き普段見られない景色を楽しんで頂いている。	“幸せ地藏”と名付けたお地藏様へのお参りを日課とされたり、畑の手入れや買い物等に出かけ、在宅時の生活圏での散歩で知人と歓談する事も喜びとなっている。又、小・中学校の運動会・町民体育祭の見物や紅葉見物・山菜取り等で季節を味わい、家族の協力での外泊・外食等が行われている。島外への受診も外出の機会となり、毎年フェリーで出かける日帰り旅行は入居者の楽しみとなり笑顔の引き出しに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族の要望を受け、ホームで管理している。 ご本人や家族の希望で本人が管理されている利用者様に於いては、日用品や嗜好品の購入の為、気分転換を兼ねて外出頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの要望があった時は、職員が援助している。ご家族や知人から電話があり、職員への用件だけであったとしても、ご本人とも会話して頂くようにしている。 会話が困難な場合は、職員が間に入り双方の思いが伝わるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングはご利用者様と、職員が毎日一緒に掃除し、不快感が無いようにしている。 リビングやトイレ等、四季に合わせた草花を飾り、壁には利用者様制作の、四季折々の貼り絵を掲示し季節感を味わっていただいている。	玄関やリビングは季節の花や置物・入居者作品の貼り絵等で季節感に溢れている。温湿度管理がされ、入居者も一緒に掃き掃除等を行い清潔に保たれたホーム内は、ソファでオリンピックを観戦したり、畳の間での洗濯物たたみ等での入居者との会話や笑い声も生活環境の一部となっている。広報係が作成した入居者の笑顔の写真入りの壁新聞を手すりに括まりながら見る等和やかな共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ポーチにベンチを設置し、気の合う利用者様同士で会話しながら日光浴を楽しんだり、廊下のソファでゆっくりご自分のペースで休息するなどされている。 和室で洗濯物を畳んだ後、そのまま畳の上で世間話をしながら横になったりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や思い出の品を持ち込んで頂き、本人らしい生活が送れる空間となっている。 就寝前にご家族の写真に話しかけたり、亡夫に見立てた仏像を胸に抱き、安心して休まれる方もおられる。	入居時に馴染みの品物の持ち込みを依頼し、家具や遺影・家族写真等を持ち込み、壁面には誕生日の色紙や自分の目標(次のオリンピックを見に行く)等を書いた書が貼られている。ベッド横にポジションバーを設置したり、夏場の日除け対策にはよしずを使用する等本人が使いやすく快適に過ごせるように工夫された居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名前プレートを掲げており、ご自分の部屋だと認識できるようにしている。 トイレや浴室も、分かり易いような大きな文字で表示してあり、理解困難な利用者様には、声掛けや誘導で混乱が生じる事の無いようにしている。		